

(講座) 臨床薬学 (研究室) 薬物治療学

(氏名) 近藤新二 (職名) 准教授

【研究テーマ】

1. ヒト遺伝性疾患の原因遺伝子・疾患感受性遺伝子の解明
2. 口唇口蓋裂発症機序の分子遺伝学的解析
3. ゲノム医学的アプローチによる個別化医療の確立

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Fukae A, Ikeda S, Inoue M, Tachibana T, Inamine T, Kondo S, Miyahara Y, Maemura K, Kohno S, Tsukamoto K. The evidence of polymorphisms of the liver X receptor gene as a DNA-based biomarker for susceptibility to coronary artery disease in a Japanese population. *Acta Medica Nagasakiensia* 55(2):69-76, 2011.
2. Inamine T, Nakamura M, Kawauchi A, Shirakawa Y, Hashiguchi H, Aiba Y, Taketomi A, Shirabe K, Nakamuta M, Hayashi S, Saoshiro T, Komori A, Kondo S, Omagari K, Maehara Y, Ishibashi H, Tsukamoto K. A polymorphism in the integrin αV subunit gene affects the progression of primary biliary cirrhosis in Japanese patients. *J Gastroenterology* 46(5):676-686, 2011. (IF: 3.610)

【学会発表】

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 稲嶺達夫, 河内歩美, 白川弥生, 近藤新二, 中村稔, 石橋大海, 大曲勝久, 塚元和弘: FGF19 遺伝子は原発性胆汁性肝硬変の重症化に関与する. 第131回日本薬学会年会2011年3月28~31日(静岡)
2. 山下愛理沙, 前田和美, 安次嶺渚, 稲嶺達夫, 近藤新二, 塚元和弘: Smad4 は潰瘍性大腸炎の疾患感受性遺伝子である. 第28回日本薬学会九州支部大会2011年12月10~11日(福岡)
3. 宇田さやか, 岡部優里, 佐々木万莉, 橋口寿恵, 稲嶺達夫, 近藤新二, 塚元和弘: VDR 多型は原発性胆汁性肝硬変の進行を予測できるバイオマーカーである. 第131回日本薬学会年会2011年3月28~31日(静岡)
4. 児島諒子, 黒川拓也, 稲嶺達夫, 近藤新二, 塚元和弘. うつ病と統合失調症の合併を予測するバイオマーカーの同定. 第131回日本薬学会年会2011年3月28~31日(静岡)

【研究費取得状況】

1. 「狭隅角緑内障の疾患感受性遺伝子解析」

基盤研究(C) 日本学術振興会

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	29 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	2 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	1 件		